

最上町にて、貴重な自然を体験した子どもたち 仙台市立山田中学校 教育旅行

5月15日から5月17日にかけて、仙台市立山田中学校の生徒97名が教育旅行で最上町を訪れました。33軒のお宅からの民泊受け入れ協力を得て、生徒たちは町の皆さんと交流を図りました。今回行った体験は、田植え、林業体験、野外炊飯、はげご編み、わら細工、木工クラフト、大筆体験、乗馬、アイス作り、ソーセージ作り、陶芸です。親倉見で行なった田植えでは、晴天にも恵まれ、生徒たちは泥まみれになりながら苗を手植えしました。生徒からは、「泥の感触を初めて感じる事ができた」「川の水が冷たくて気持ちよかった」などの感想がありました。そのほかの体験でも、初めてのことに苦戦しながらも各々活動を楽しんでいるようでした。



田植え体験（親倉見）



乗馬体験（前森高原）



わら細工（中央公民館）



今年の絵柄は何でしょう？ 榎っ子田んぼアート2018

6月3日、今春閉校した旧月榎小北側の水田で、「榎っ子田んぼアート2018」の田植えが行われました。今年のデザインは「金太郎」です。この絵柄には、榎っ子が元気にたくましく成長するようにとの願いが込められています。町内外から140名余が参加し、子どもたちは裸足で泥の感触を楽しみました。

小学校が閉校しても月榎榎地区の絆を守ろうとの思いから、実行委員会を組織して準備を進めてきました。熊にまたがり鉞を担いだ「金太郎」が見ごろを迎える7月から9月末まで、校舎展望室が開放されますので、お誘い合わせのうえご覧ください。

おいしいタケノコ汁あります！ 最上広域森林組合主催 山菜まつり

5月29日、役場駐車場特設ブースにて、毎年恒例の最上広域森林組合主催の山菜まつりが開催されました。採りたての新鮮なタケノコを使ったおいしいタケノコ汁の無料配布や、ミズやワラビといった旬の山菜の販売が行われ、多くの来場者でにぎわいました。

訪れた皆さんは、温かいタケノコ汁を食し、春の訪れを感じるとともに、山の恵みの豊かさを堪能している様子でした。



40年ぶりに復活「赤倉温泉むかさり行列」

5月26日、赤倉温泉にて「むかさり行列」が行われました。むかさり行列は、花嫁が集落を練り歩き、地域の方々に挨拶をするという昔ながらの伝統行事です。発起人は、宮城県から赤倉温泉に嫁ぎ、現在町の地域おこし協力隊として精力的に活動している山崎香菜子さん。「結婚式をやるのであれば、地域の皆さんに喜ばれるものにしたい」との思いから企画したそうです。

約半世紀ぶりに現代によみがえったこの行事を一目見ようと、町内外から多くのお客さんや取材陣が押し寄せ、赤倉温泉は普段とはまた違ったにぎわいを見せました。花婿の家を目指す花嫁は、地域の方々による「止め唄」により何度も足を止め、通常5分の道のりを約1時間かけて移動しました。かつてのむかさり行列を知る方のみならず、赤倉小の児童も止め唄を歌い、地域の伝統が受け継がれる機会となりました。



みんなでわっしょい！ 赤倉温泉春まつり

毎年恒例となっている赤倉温泉春祭りが、5月13日、盛大に行われました。

最上中学校吹奏楽部の演奏を先頭に、町内会、あかくら幼稚園・赤倉小学校の児童たちと地域の方々がそれぞれのおみこしを担いで、楽しそうに地域内を練り歩きました。

おみこしが各商店や旅館、地区の家々の前で立ち止まる度に、子どもたちは家内安全・商売繁盛・五穀豊穡を願って、「わっしょい、わっしょい！」と威勢のよい掛け声を放っていました。



大人も子どもも楽しく参加 野頭集落運動会

初夏の日差しに恵まれた6月3日、野頭集落で第28回となる住民主催の運動会が開催されました。この運動会は、実行委員長の菅信幸さん（野頭）を中心に集落在住の若者が実行委員となり、毎年行なっている恒例のイベントです。およそ100名の参加があり、幼児からお年寄りまで幅広い年代の方々が、競技を通して楽しく交流を持ちました。子どもを抱えて走るお父さん・お母さんの姿や、実況解説を楽しむ子どもたちの姿がたいへんほほえましく、これから先も続いてほしいと思えるイベントでした。